

学びと誇りが実感できるまち

～年齢を問わず絵本を！～

令和2年11月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



流れゆく大根の葉のはやさかな

(高浜虚子)

「お願い、早く姿を見せて！」 「もっととばせ、ラストスパート！」

先月、道後山高原クロカンパークで市内中学校駅伝大会が行われました。この大会は今年15日(日)に東広島市で行われる広島県大会(中国中学校駅伝競走大会)の予選も兼ねていました。練習の成果を発揮して県大会への出場をかけ、全選手がチームの願いを込めたタスキを次から次へとつないでいき、男女ともに手に汗握るレースとなりました。各選手は、それぞれのチームの心意気を胸に最後まで懸命に走りぬぎ、その姿には熱くなる思いがこみ上げてきました。

なお、県大会への出場権を獲得したチームは、女子の部：(口和中、庄原中)、男子の部：(西城中、口和中)です。健闘を祈ります。

さて、今回は、幼児から高齢者まで、子供も大人も、年齢を問わず絵本を手にとって読みましょうということについてです。

皆さんは、最後に絵本を読まれたのはいつでしょうか。絵本は子供が読むもの、あるいは子供に読み聞かせるものといったイメージはないでしょうか。むしろ大人になっても絵本としっかり向き合うことをお勧めします。幼い頃には気づかなかった不思議な世界に包み込まれることもあり、また、あたたかい気持ちや日常生活で忘れがちな大事なことにも気づくことができるかもしれません。

絵本の魅力は、平易な物語とえりすぐられている言葉、それに共鳴する絵との相互作用が挙げられます。また、見るだけで、眺めるだけで、読んでもらうだけで、絵本から語りかけてくれるものがあります。さらに、絵本は生きる力や傷つき落ち込んでいる気持ちを救い上げてくれる力も持っていることを感じることができます。

「人生に3度読むべき絵本」

「人生に3度」とは、まず自分が子供の時、次に自分が子供を育てる時、そして自分が人生の後半に入った時という意味です。特に、人生の後半、老いを意識したり、病気をしたり、あるいは人生の起伏を振り返ったりするようになると、絵本から思いがけず新しい発見というべき深い意味を読み取ることが少なくないと思うのです。生きていく上で一番大事なものは何かといったことが絵本の中にすでに書かれているんですね。

【「絵本の力」(岩波書店)の中から抜粋 作家：柳田邦男の言葉】

絵本にある絵や文字から子供も大人も想像力が掻き立てられ、ストーリーも自由に考えることができます。是非、絵本を手にとって読み味わってみましょう。